

新年早々たわごとうわごとよまいごと

<1> 4人が誤認逮捕

遠隔操作ウイルスに感染したパソコン(PC)から犯行予告・脅迫のメールや書き込みが繰り返されるという事件があった。四人の男性が逮捕されたが、実は誤認逮捕であり冤罪だということになった。

以降この事件に関するニュースを報道する時に、ニュースのタイトルを「四人が誤認逮捕された事件」と呼ぶようになった。毎日毎日、何度も何度も耳にしている内に耳障りになって来た。

「遠隔操作ウイルス事件」とか「遠隔ウイルス冤罪事件」とか別のタイトルを付ければ良いものを「ヨニンガゴニン・・・」という駄洒落のようなフレーズがあるから耳障りなのである。

どうせなら、もっと駄洒落に徹してこんな風にしたら・・・・・・・・

四人が誤認逮捕された事件は、ろくに調べもせず何となくやったために起きた。原因を究明して、担当者を当分謹慎処分としなければならない。

<2> 再び政権交代

衆議院選挙が終わった。何ヶ月か待てば任期満了で選挙が予定されていた筈なのに、しかも幾多の難題を抱えて一時も停滞が許されないような緊迫した時期であったにも関わらず、「何故今せねばならぬか？」の疑問を感じながら選挙の日を迎えた。

そしてその結果政権が民主党から自民党に移ることになった。そしてまた新たな空白の時期が生まれ、さらに前政権の政策の延長はあり得ないとして、いくつもの施策がサスペンドや変更になり、ここにまた空白が生じる。困ったものだが、今更言っても始まらないが・・・・・・・・

選挙では多くの国民の人気を得たいばかりに撒き餌が行われる。撒き餌に食らいついた票が結果を左右することになる。そして出来上がった政権は、主要な施策のひとつとして撒き餌の後始末もしなければならない。

「あれもやる、これもやる」、「財源は?」、「建設国債で・・・」

「景気を回復するためにXXをやる」、「財源は?」、「国債発行で・・・」

かくして、すでに膨らみ過ぎている筈の赤字国債はさらに膨らんでいくことになる。

「スマホが欲しい」、「サラ金で調達」 「車が欲しい」、「ローンを組んで」

「車が欲しい」、「ハワイへ行きたい」・・・・・・・・「カードで」・・・・・・・・

毎月あらたに借りる金がXX円、毎月の返済額がYY円、どうすんの? というどこかのお家の状況と同じ。このまま行くとサラ金地獄、借金地獄で差し押さえ、反省して生活スタイルを変えなくていいの?

<3> 公明党の不思議

自民党の政権獲得が見えて来るや公明党はすぐさま連立政権への意向を表した。

連立が決まるや次は「大臣ポストひとつ」の要求。

私は「国土交通大臣のポストを狙っているに違いない」と読んでいたが、見事に的中した。

細かく眺めて見ると政策面での不一致点は少なくないような気がするが、過去の自民党との連立での体験が忘れられないのだろうか。

公明党は初期の連立政権においては厚生労働大臣のポストを取ったが、以降は一貫して国土交通大臣を押さえている。このポストは公明党にとって何か大きな意味を持つポストで、物静かに何か大きな利得を押さえようとしているのではないかと気になってしまう。まあ、下種の勘繰りはやめておこう。

<4> 裁判って?弁護士って?

裁判のニュースが報道される度に気になることが沢山ある。

傷害事件や殺傷事件が後を絶たない。事件が起きると必ず「加害者が責任を負える状況にあるのか?」

「加害者は正常な精神状態ではなかったので罪は問えない」と言うような、加害者を弁護する見解が先行する。何の心の準備もないままに命を断ち切られたり、体にも心にも大きな傷を負って再起に苦悩することに

なった被害者の立場での議論が余りにも希薄すぎる。送検はされはしたものの、裁判開廷のめどが立たなかったり裁判が始まったが遅々と捗らない話を数多く聞く。

弁護士は被告の人権を守るためにという大義名分のもとに、明らかに人を一人殺しているにも関わらず無罪を主張したり、殺意がなければできそうにもない残虐な殺人を「殺す気はなかった」として弁護したりで、ニュース報道を聴いていても腹が立つことがある。また、まだ年若い被告に再起の機会を与えるべく温情の判決を下すことがあるが、被害者の命や傷が消えてなくなるための施策は重視されていないように見える。裁判は誰のために、何のためにやっているのか？

公務員（警察・検察・裁判関係者など）が「一つの事件のレポートを美しくまとめて締めくくる」だけのためにやっているのではないかと、とは思いたくないが・・・。

<5> 映画を見るのがいちばん

年末から年始にかけてのテレビはあまり見ないことにしている。今年は数多くの友人から「今年は年末年始のテレビ番組がひどかった。思わず消してしまった」というようなメッセージが届いた。

タレントが寄り集まって勝手にふざけ合う番組や無知なタレントに社会探訪や旅をさせて驚きの声を上げさせる番組など金をかけて作ったにしてはひどすぎる番組が横行している。

近頃はNHKの番組もその流れに迎合しており、アナウンサーまでが「おふざけタレント」側に加わってしまい、見るも哀れな騒々しいだけの番組が目立つ。

スタジオに視聴者を集めた番組では、必要以上に客席に「へーッ」と驚きの声を上げさせる「やらせ番組」。比較的まともな番組は過去の思い出を振り返る「思い出番組」だが、これとていくつも同じような物を並べられたら見る気もしない。番組表が埋まらなくて困って旅番組など中心に古い番組を持ってきて埋めていることも多い。どうしても埋まらない所は、「通販番組」にしたり「通販コマercialで埋め尽くした番組」でごまかしたりしているが、どう見ても買いたい気が起きないような商品が目立つ。

と言うような次第で、「一億総白痴化」の総仕上げのような年末年始だった。

例年通りのことではあるが、ラジオで音楽やCDで落語を聴いたり、予め録画してあった映画を見たりを楽しんだ。おかげで、随分色々な映画を楽しむことができた。

タイトル	監督	主な出演者
夜を楽しく	マイケル・ゴードン	ロック・ハートソン トリス・デイ トニー・ランドール
鉄道員	ピエトロ・ジェルミ	ピエトロ・ジェルミ エトアルト・ネブラ
間諜 X27	ジョセフ・フォン・スタンバーグ	マレーネ・デートリヒ グスタフ・フォン・セイファートイツ
二等兵物語(女と兵隊・蚤と兵隊)	福田晴一	伴淳三郎 花菱アチャコ
カルメン故郷に帰る	木下恵介	高峰秀子 小林とし子 笠智衆
喜劇日本のおばあちゃん	今井正	北林谷栄 ミヤコ蝶々 東山千栄子
有りがたうさん	清水宏	上原謙 桑野通子
カラマーゾフの兄弟①②③	イワン・プイェフ	マイル・ウリヤノフ キール・ラブロフ
望郷	ジュリアン・デュヴァイ	ジャン・ギャバン ミレユ・バラン
熱いトタン屋根の猫	リチャード・ブルックス	ポール・ニューマン エリザベス・テイラー
さよならをもう一度	アトル・リトゥヴァク	イングリット・バーグマン イブ・モンタン アンソニー・パーキンス
いそしぎ	ビンセント・ミネリ	リチャード・バートン エリザベス・テイラー

以上